

# 若狭高校訪問記

2/9、次の日から入試休みなので午前授業。そのまま京都へ。

2/10、早朝5:54、京都駅から湖西線に乗り込んで琵琶湖を北上。湖の対岸の山々から上る朝日を眺める地元の高校生の澄んだ目、忘れられません、写真撮ればよかったなあ。



近江今津駅に降り立ち、バスで雪をかぶった山間の集落を抜けていくと、もうそこは福井県です。

8:30、目的地の福井県立若狭高校に到着しました。そこで待っていてくださったのは国語科の渡辺先生です。

僕と渡辺先生の出会いをお話すると、Facebookのグループで一緒になったのがそもそもの始まりです。メンバーを見ながら、「あ、福井県の人で渡辺さんという人がいるんだなー」くらいの印象でした。

数ヶ月して、うちの学校の国語の授業を見学する方がいらっしゃいました。聞くところによると福井県からきた渡辺先生という方だそうです。「Facebookで福井県の渡辺さんっていたけど、まさか一緒じゃあるまいよな…」と疑い半分で伺ってみたら、なんとたまげたことに同一人物！この時の「奇遇ですねえ！」ほど、素から出たものではありませんでした。

そんなご縁もあって、今回若狭高校に伺う運びとなりました。

若狭高校は、1897年に設立された小浜尋常中学校が元になっており、約120年の歴史をもつ伝統ある学校です。SSH (Super Science High school) に指定されており、特に海洋系が強いそうです。また、スポーツも盛んで、ラグビー部や、野球部が全国大会、甲子園に出場するなど県内強豪校となっています。そんな若狭高校の理念は、「異質のものに対する理解と寛容の精神」だそうです。

まずは事務局の方、教頭先生、授業を見させていただく先生などに挨拶をして、二限から見せていただくことになりました。

2時間目、高2の英語の授業です。使ったテキストの文章の内容は強制収容所に連れられたあるユダヤ人の話で、随分悲しい話でした。

初めに、授業するパートを一通り読みます。面白いのはその後からです。バツと立ち上がって、そのパートの要約を2,3分で隣の人に英語で説明し合います。それを2,3回、席を移動しながらや

ります。一連の動きのテンポ感と言ったら、もう職人芸でした。最初は教科書を見ていいんだけど、3回めくらいからは見ないで説明します。時間内に終わらなくても、次々に席を移動していくのです。

一通り自分で要約が説明できるようになったら、次にその文章内にある内容解釈の問が2つでした。数分考える時間をくれます。その後、また先程のように立ち上がって今度はその問題に対する自分なりの答えを隣の人に英語で説明し合います。最初は60秒だったのですが、ちょっと短すぎたようで、2,3回目は90秒で説明していました。

次に、その問題の答えを何人かが当てられて、皆に向けて、これもまた英語で発表します。それが終わると先生がまとめを言います。

最後に、そのパートを素早く読み上げて、ディクテーションをして授業終了。50分がバババァーっと過ぎて行きました。

授業後生徒さんに話を聞きました。曰く「授業はずいぶん早い」そう。「でもなー、やっぱり自分で考えなアカンから力は付く感じる〜」（言葉遣い怪しいです、すみません）。

ちなみに、20人クラスでした。

この授業のテンポ感はとっても新鮮で、息つく暇を与えないという感じでした。思考力、スピーキング力、リスニング力、ライティング力、そしてプレゼン力がドバーっと付きそうだなーって思いました。そんな授業をやってのける先生もすごいですし、それについていく生徒さんもすごいです（最初何やってんのか全然わかんなくて大変でした）。

3時間目、高3の国語。担当は渡辺先生です。前田英樹さんの「独学の精神」という文章で、出された問いは、『パスカルの「人間は考える葦である」という言葉において、「葦のように考える」とはどういう事だと筆者は言っているか』というものでした。

まず一人で考える時間があって、その後3人位のグループで「どーゆーことかねー？」と話し合い、文章で答えをちゃんと書いて前に座ってる渡辺先生の元へ持ってくという感じでした。こういうようなスタイルはうちの学校の国語科の先生もやっていらっしゃるみたいです。

ま〜難しくてですね、どういう風に書き始めたら良いのやら…と机の前で腕を組んで「うーん」となるような内容でした。感性を磨かないといけないなーと自覚しました。

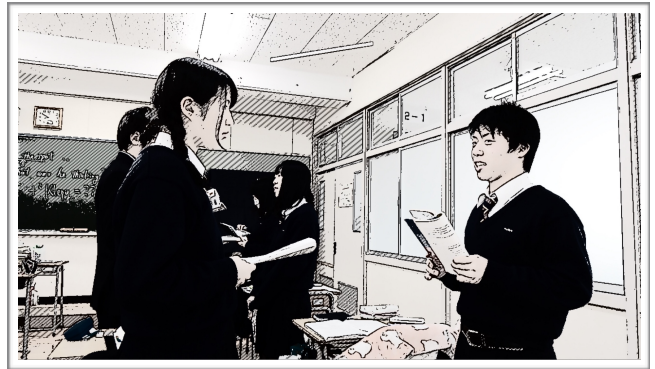
またまた生徒さんに聞いてみました。

「渡辺先生の授業？もう全部投げてる感じやな、書いて持ってくとすごい傷つけられる（笑）、でもなーほんとに国語力つくで、うちめっちゃ伸びたもん」

「（答えらしきものは教えてくれるんですか？

という質問に対して）だいたいなー。でも時々教科書の答えが気に入らへん言うて、うちの答えの方が良いって言ってくれる時あんねん、そんなときめっちゃめっちゃ嬉しいな。」

「あのめっちゃええ人やで」

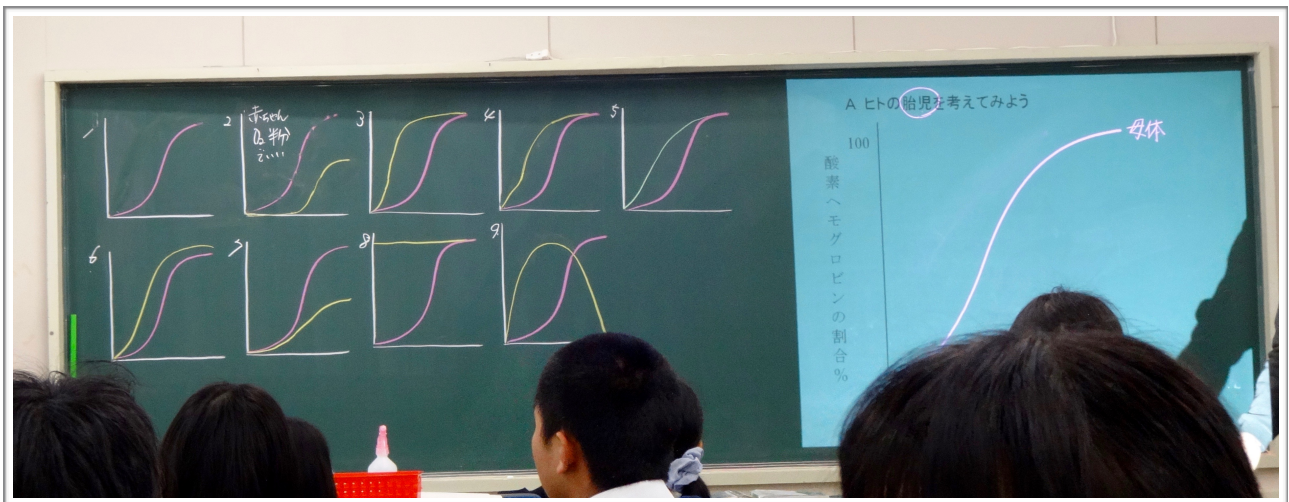


高3なので10人いるかいなくらいでしたが、とっても良い雰囲気でした。

4時間目、高1の生物。大人の酸素濃度を横軸にとって、酸素ヘモグロビンの割合を縦軸にとったグラフを生徒に見せて、「そしたら、これが胎児だったらどういう曲線になってるか考えてみ」という内容でした。

まず一人で考えます。先生が、「どーせ答えなんて誰もわからんねん、一本自分が思ったもん引いてみ」って強く言うもんですから、「絶対わからんわ〜」と言いながら渋々ヒョイツと引くといった様子。

次に、4人位の班を作ってお互い引いた線をその理由とともに見せ合います。「胎児は母親より酸素いかれへんからこうなるんちゃう」とか、「いやいや逆やる」とアイデアを出し合って、班で出した答えを黒板にそれぞれ書きます。



先生が言います。「まずこん中に1つだけ絶対ありえへんのあるよなー、どれ?」、うーん、なかなか皆答えません。「何々、どれや思う?」「8番?」「なんでそう思った?」「なんとなく」「なんとなくじゃアカンねん」でも先生は正解を言わず、答えとその理由が出るまで辛抱強く待ちます。

「〇〇、お前はどうか?」「8番?」「なんでや」「酸素濃度0%で酸素ヘモグロビンの割合が100っておかしいから?」「そうだよなー!ハイ拍手!」

こんな感じで、最終的な答えまでたどり着きます。時間はかかってしましますが、この方が理解も深まりますし、次出た時に間違えない気はします(でも最後の方駆け足気味だったから、ちょっと理解しにくかった部分があったかもしれませんが、だから「もっかいちゃんと考えとけよ〜」っておっしゃってました)。

授業後、「先生どういうこと〜?」と何人かが聞きに行き、先生、「こうこうしかじかだからこういう風になるんや」と丁寧に説明すると、「あ〜先生わかった〜!先生ありがと〜!」37人クラスでした。

昼休み、生徒会の人と、討論実行委員会の人たちとご飯をご一緒させてもらいました。生徒会は、うちと違って文化祭、体育祭、合唱コンなどを全部取り仕切るそうです。討論実行委員会は、若狭高校がやっているクラス対抗討論大会の準備などをします。討論大会については後述します。

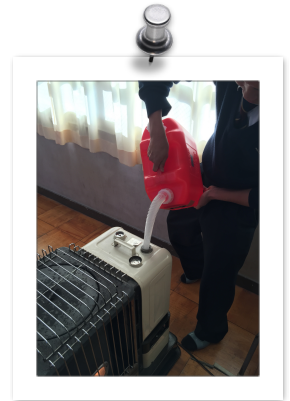
なかなか個性的な人たちばかりでした。生徒会長のマッコヨさんは、「俺ほんとは生徒会長なんてやる気全く無かったんやけど、あ、こっから先若狭の裏話になるんやけどな…(世界中に広



めてしまうのはちょっと躊躇われるので以下略)」という過去を持っていらっしゃいます。「俺今はちゃうけど昔はホンマにマッチョやったんやで、誰も信じてくれへんねん」。

副会長は、マッチョさんのサポート役としては大抜擢といったような感じ、書記長と討論委員会のお三方はここでは表現できないほど面白い方々でした。「私キノコほんとに好きやねん！去年の研究キノコにしたんや！（何でキノコがそんなに好きなの？という問いに対して）あんな、中学生の時山道歩いていたらムラサキシメジ（この名前の記憶曖昧です）があっつてな、は～世の中こんなに綺麗なキノコが存在するんかーって、そっからやねん、キノコ好きになったの」。さらに聞こうとしたところ他の方々に「この人にキノコの話振らんといて！止まらんくなるから！」といわれてしまいました。その他ほんとに色んな話を聞かせていただき、気づいたら昼休みが終わっちゃってあら大変、ご迷惑をお掛けしました。

若狭高校では、昼休みと5限の間に掃除をします。僕もさせていただきました。見たところ、教室掃除とトイレ掃除、あと灯油を組んでくる役割に分かれているようで、教室にストーブがある事自体初めてみるものですが、あの赤い灯油ケースにちょっとした管をつけて、ジョーっと入れていく様子はとっても新鮮でした。それにしても、床がうちの学校の何百倍も綺麗。。。



5時間目、今度は高1の英語です。

El Sistema についての英文でした。まず文章を速読します。190 words を60秒だったと思います。次に、各自iPadを取り出します（県から支給されたやつだそうです）。あるアプリを開くと、そこにはEl Sistemaに関する写真や、文字がプレゼンのスライドみたいな感じで載っています。生徒たちはまず隣同士で交互に、そのプレゼンiPadを相手に見せながらそのパートの要約を英語で、60,70秒くらいで説明します。やっぱりこれも時間内には終わらないので何回かやります。そして4人グループをつくり、レッスン全体を先ほどのように4人がそれぞれ説明し合います。それが終わると何人かが前に出て（何と前にはテレビ画面があって、



Air PlayでiPadが映るようになっていきます）説明をしました。授業はそこまでです。

その後質問時間をわざわざ先生が作ってくださったので、生徒さんに色々お聞きしました。

・若狭高校、小浜市、福井県の良いところは？という質問に対して、

「海が近いな～」「カニ」「環境が良い」「気楽」「仲いい」「校舎に趣がある」「地価が安い」「学力一位、体力一位、幸福度一位」「意外と歴史あるで」「異質のものに対する理解と寛容の精神」などなど。

面白かったのは、「三科（普通科、文理探究科、海洋科学科）がそれぞれいい味を出していて、その中から社会の構造が垣間見える」という答えで、三科は全く別というわけではなく、様々な交流があるそうなので、そういうのは良い所なんだな～って思いました。でもせっかく答えてくれた人は「いつもと違う、うちの知ってる○○じゃない」と皆さんに言われてました。

あと、他教科の先生が結構見いらしてたので、そういう事は多いんですか？という質問に対しては「今日だけや」（笑）、でも好きな授業は見に来るそうです。すごい！



ここもまたすごく活力あふれるクラスで、とっても面白かったです。25人でした。

6時間目、高1数学。剰余の定理を証明、演習する授業でした。これも、まず4人で机をくっつけて考えます。それで一通り証明できたら、それを使って演習。ちょっと応用。そんな感じでした。数学を、机をくっつけてやったことがなかったのでこれもまた新鮮でした。

それでこのクラスでもまた質問時間を作って頂いて（貴重な授業時間を、ほんとにすみませんでした）、色々お聞きしました。

まず4つ授業を見て、とにかく先生も熱心で、それに応ずるように生徒の皆さんも熱心でした。なんでかなーと思ってその理由を聞いてみました。曰く「やっぱり地域性っていうのはあると思います」。「もともと嶺北（福井県の石川県よりの方）にある高校にいたんですが、そこはもうこんな授業をやっても全然聞いてくれないし、でもここは地域の方々がすごく温かくて、生徒の皆さんもとっても仲がいいんです」。「授業の準備も、”生徒あっての物種”です」。

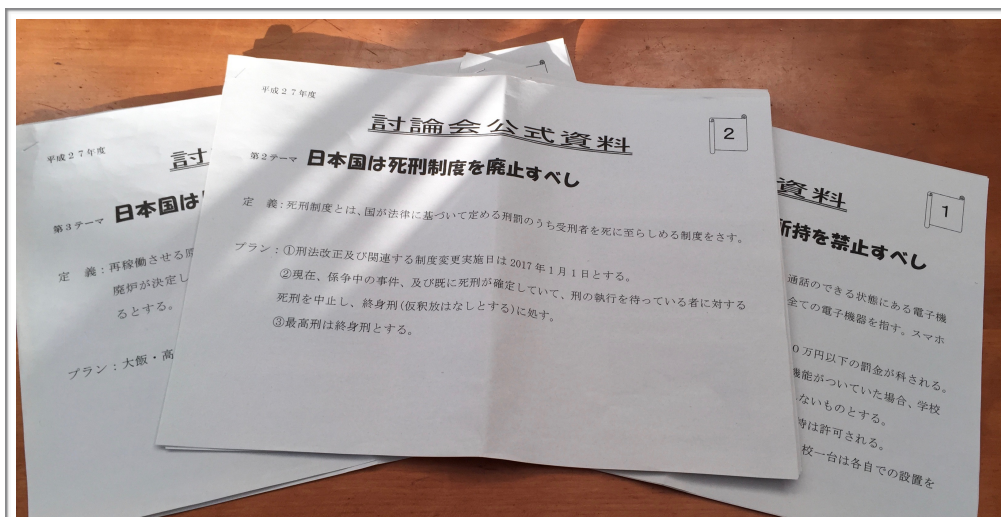
ただ、こんなことも話していただきました。「他のクラスだと、こんな風には出来ませんねー、やっぱ一斉授業になっちゃう。自分がここの担任ってこともあるからだと思います（信頼関係ができているということ）」。「やっぱ、学びの楽しさを知ってもらいたいですよね、そういうのを普及させるのが我々のなすべきことかなって思います（ここは松岡の勝手な解釈で書き加えているので違ってたら指摘お願いします）」。その他、若狭高校の課題点について様々なことを教えていただきました。ありがとうございました。生徒数は28人でした。

7時間目はLHRでした。先述した討論大会の役割決めです。

討論大会とは、クラス対抗で行うディベート大会で、6チーム（3テーマの肯定と否定）/クラスで出場、1チーム1回しか勝負しません。6勝すると金賞、5勝は銀賞、4勝で銅賞となります。高1のクラスを見て回りましたが、「初めてだから不安がある」と口々に言っていました。ちなみに気になるテーマですが、今年度は

- ①日本国は高校生以下の携帯の所持を禁止すべし
  - ②日本国は死刑制度を廃止すべし
  - ③日本国は日本のすべての原発を再稼働すべし
- です。

さすがに何も無いところからは意見、主張を立てることもできないので、昼休みにお会いした討論実行委員会の方々が、「討論会公式資料」というものを作って配布します。生徒会長曰く「（作るのが）すごく大変そうだった」。



その内容を見てみると、なるほど模擬国連のBG（Background Guideという、模擬国連のテーマについて基本的な情報が書いてある冊子のこと）に負けず劣らずのリサーチ量です。ただただ感心するほかありません。もっとお話聞いとけばよかった…。

さて、LHRではそれぞれのクラスでグループを作り、早速資料を見ながら構想を練っていきます。ここは強みだ、とか、ここは指摘されると痛いな…というのをマークしたり、自分の持ち合わせている情報を思い浮かべながら主張の方向性を考えていきます。個人的には②の否定が一番難しいかと思っていました。

また、別のクラスではさっさと役割決めを終わらせて席替えをしていました。ストーブの近くは大人気だそうです、曰く「あったかいもんな〜、ここ（小浜市）寒いねん」。また、担任の先生について先日フラれたとか、何でそんなこと知ってるんだって情報をいっぱい教えてくれました。本当に先生と生徒の距離が近いんだなーって思いました。

もう気がついたら16:30でした。あっという間の8時間でした。最後に事務長の方に挨拶をさせていただいて、若狭高校を後にしました。7時間半の長い帰路を経て、家に到着。やっぱり遠いですね〜、新幹線ができてくれるとありがたいのですが…。

若狭高校は、とってもとっても素晴らしい高校でした。生徒さんと先生方の温かさ、純朴さ、何もかもが僕のくすんだ目からはキラキラ輝いているように見えました。なんでなんだろうなって、帰りにずっと考えていました。

もちろん色々な要因が思い浮かびました。小浜という場所だからなのかな、ストーブもありそうだ、嶺南の方言ってのもあるかもしれない…。でも、真に迫る”何か”が出てきませんでした。

翌日の午前中、ふと年末にNHKで聞いた長渕剛の「親知らず」という曲を思い出してYouTubeで聞いていました。すると、関連動画に「ようこそ先輩」で長渕剛の回があり、なんとなく見ていたら、終わりのあたりで涙がぼろぼろとこぼれてきてしまいました。普段感動映画でも泣かないので自分でもびっくりしました（「長渕剛 叫びの授業」で検索すると出てきます）。

僕を含め、世の中多くの人が「感じることを忘れています。「叫ぶ」ことを忘れてしまっています。若狭高校に行って、そして叫びの授業の動画を見て、僕はようやく分かりました。問題は全く逆なんだな、と。

つまり若狭高校の人たちの目がキラキラしている理由ではなく、我々の目がくすんでいる理由を考えなくてはならないんだ、ということです。

今回若狭高校の生徒さんに将来の夢は、と聞かれ「若狭高校のような学校を全国に作ることで」と申し上げました。今その信念は確固たるものとなりつつあります。

最後に、たかが一高校生のわがままを、快く引き受けてくださって渡辺先生を始め、拝見させていただいた授業の先生方、その他全ての先生方、事務局の方、そして沢山話しかけてくださった生徒の皆さん、若狭高校のすべての方々に感謝申し上げます。この時期に若狭高校に伺うことが出来て、本当に良かったと思っています。同じ高校1年生として生徒の皆さんと同じ視点で授業に参加し、また教育に興味を持っている1人の人間として、浅学非才ながらちょっと引いたところから授業を拝見させていただくという、2つの視点から学校を見渡せることは、もう一生ないことだと思います。残念ながらここには書ききれなかった、若狭高校で見た、聞いた、感じた全てのこ

とが僕の宝物です。こんな貴重な経験をさせていただいて、非常に嬉しく思います。本当にありがとうございました！！



みなさんの憩いの場、ストーブ